



平成 27 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社アドテック
代表者名 代表取締役社長 小野 鉄平
(JASDAQ・コード番号 6840)
問合せ先 取締役管理本部長 五十嵐 英
(TEL. 03-3541-5080)

特別損失（減損損失）の計上及び業績予想との差異に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 3 月期の連結決算において、特別損失（減損損失）を下記のとおり計上しましたのでお知らせいたしますとともに、平成 26 年 5 月 15 日に開示いたしました平成 27 年 3 月期の通期の業績予想値と本日公表の平成 27 年 3 月期連結及び個別決算の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社は、連結子会社である株式会社ティームエンタテインメントの最近の業績に鑑み、当社の保有する同社株式及び連結会計上の同社に係るのれんの価値について、慎重に検討し、会計監査人とも慎重に協議した結果、保守的な会計処理を選択することが適切であると判断し、当社の保有する同社株式 165 百万円及び連結会計上ののれん 127 百万円の減損損失を特別損失として計上することといたしました。

同社は、音楽 CD の企画、製造、販売を主な事業としておりますが、CD 市場全体が縮小傾向にある中、ヒットしたアニメやゲーム等のコンテンツを原作とする商品の企画、製作が軌道にのらなかったこと、また、利益率の高い旧譜のリピートオーダーの実績が想定を下回ったことから、最終利益は確保したものの、期初の想定を下回る結果となりました。今期においては、継続して顧客ニーズにかなった CD を企画、発売して安定的な収益を確保するとともに、拡大傾向にあるコンテンツの配信事業を強化し、また、長年の音楽制作のノウハウを活用し、安定的な収益源となりうる受託制作事業と、既存顧客層に対する、コンテンツを活用した音楽以外の分野の商品、サービスの提供の推進により、業績の回復を図ってまいります。CD 市場の状況は引き続き厳しい状況にあると想定され、将来の収益性に関して保守的に判断すべきであると認識していることから、上記の通り、減損損失を計上することといたしました。

2. 業績予想値と実績値との差異について

(1) 平成 27 年 3 月期連結業績予想値と実績値との差異

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,892	52	57	17	2.01
今回修正予想 (B)	4,019	55	54	△129	△15.28
増減額 (B-A)	127	3	△3	△146	
増 減 率 (%)	3.2	5.7	△5.2	-	
(参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	3,252	10	15	5	0.61

(2) 平成 27 年 3 月期個別業績予想値と実績値との差異
(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 3,323	百万円 19	百万円 9	円 銭 1.07
今回修正予想 (B)	3,404	17	△154	△18.29
増減額 (B-A)	172	△2	△163	
増 減 率 (%)	5.3	△10.5	-	
(参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	3,104	20	18	2.19

(3) 差異の理由

主力事業であるメモリ製品製造販売事業及びウェブソリューション事業が堅調に推移し、第 4 四半期においては、M&A による新規事業である通信コンサルティング事業が売上及び利益に貢献したものの、上記「1. 特別損失の計上について」に記載のとおり、株式会社ティームエンタテインメントの株式 165 百万円を個別決算に、また、連結会計上ののれん 127 百万円の減損損失を連結決算に特別損失として計上したことから、前回予想を下回ることとなりました。

なお、株式会社ティームエンタテインメントの株式評価損（特別損失）は、連結決算においては消去されるため、連結損益への影響はありません。

以 上